

②農村計画学会2009年度秋期公開シンポジウム

学術交流委員会

テーマ：ルーラル・サステナビリティ：生態系，社会関係資本，公共政策の視点から

趣旨：「持続可能な農業から持続可能な農村へ」という流れが加速化している。社会が求めている持続可能な農村を実現していくためには、農村がどうあるべきかについての理念が社会的に一定程度共有される必要があるが、その理念はまだ明確な像を結んでいないのが現状である。そこで、理念において具体化されるべき重要な要素である農村の持続可能性について、今回あえてそれをカタカナでルーラル・サステナビリティと呼び、その内容を明瞭かつ豊富にし、理念を実現するための指標としての活用も含め、その概念の可能性を展望し、農村計画に新たな風を吹き込むことが本シンポジウムのねらいである。そのため、本シンポジウムでは、ゲスト座長のもとで、現場において農村の持続可能性に大きな影響を与え、それを強く規定する生態系，社会関係資本，公共政策という3つの視点から、課題に大胆にアプローチしていくことにしたい。

日 時：平成21年9月12日（土） 13：00～17：30

場 所：京都大学吉田キャンパス北部構内農学部総合館 W100教室（京都市左京区北白川追分町）

プログラム：

開会挨拶 13：00 農村計画学会会長 生源寺眞一（東京大学大学院農学生命科学研究科）

趣旨説明「ルーラル・サステナビリティと農村計画」（13：15～13：30）

浅野耕太（京都大学大学院人間・環境学研究科）

講演1．「ルーラル・サステナビリティと生態系」（13：30～14：10）

森本幸裕（京都大学大学院地球環境学堂/農学研究科）

講演2．「ルーラル・サステナビリティと社会関係資本」（14：10～14：50）

諸富 徹（京都大学大学院経済学研究科）

講演3．「ルーラル・サステナビリティと公共政策」（14：50～15：30）

小田一彦（京都府農林水産部）

休憩 (15：30～15：45)

パネルディスカッション (15：45～17：15)

座長：植田和弘（京都大学大学院地球環境学堂/経済学研究科）

パネリスト：講演者

コメンテーター：神吉紀世子（京都大学大学院工学研究科）

橋本 禪（京都大学大学院農学研究科）

座長解題 (17：15～17：30)

閉会挨拶 (17：30)

大会実行委員会顧問 小林慎太郎（京都大学大学院地球環境学堂）
(シンポジウム終了後，交流会)